

令和5年3月6日

愛南町議会

議長 原田 達也 殿

総務文教常任委員会

委員長 石川 秀夫

所管事務調査報告書

総務文教常任委員会の所管事務の調査を実施したので、愛南町議会会議規則第76条の規定により、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

《第1回》

- 1 日時 令和4年11月22日(水) 午後1時30分から
- 2 開催場所 議員協議会室
- 3 出席委員(7名)
石川 秀夫、尾崎 惠一、池田 栄次、金繁 典子、原田 達也
那須 芳人、吉村 直城
- 4 調査事項
公共交通システムの調査研究
- 5 説明員の職及び氏名
総務課 課長 立花 慶司、同主査 山口 昌
- 6 調査内容
あいなんバスの時刻表、経路図、過去5年半の乗車人数実績、宇和島自動車の時刻表、町内の交通事業者の状況等の資料により、地域公共交通の現状について総務課長から説明を受けた。
執行部から「コミュニティバスは廃線となったバス路線の補完が前提となる」との報告があったが、委員からは、利用者の少ない路線について「買物・通院等の利用者のニーズが満たされていないのでは」、「利用者の意見を取り入れる仕組みはあるか」、「高齢者、障がい者等の交通弱者の意見を反映して欲しい」等の意見が出された。
令和4年度「愛南町地域公共交通計画」に関する住民アンケート調査の集計結

果が12月20日以降にまとまるので、そのアンケートにより課題を整理することになった。

《第2回》

- 1 日時 令和4年12月22日(金) 午前10時から
- 2 開催場所 議員協議会室
- 3 出席委員(6名)
石川 秀夫、尾崎 惠一、池田 栄次、金繁 典子、原田 達也
那須 芳人
- 4 欠席議員 吉村 直城
- 5 調査事項
公共交通システムの調査研究
- 6 説明員の職及び氏名
総務課 課長 立花 慶司、同主査 山口 昌
- 7 調査内容

「令和4年度愛南町地域公共交通会議」資料、令和4年度「愛南町地域公共交通計画」に関する住民アンケート調査(集計表)及び「あいなんバス利用者から寄せられる主な問い合わせ」資料の提示を受け、総務課長から説明を受けた。

委員からは「あいなんバスと福祉タクシー助成事業等の支援事業を組み合わせ、交通弱者が支援から漏れることのないように配慮して欲しい」等の意見が出された。

今回は、あいなんバスの「小山・正木・中川・満倉線」及び「敦盛・大僧都線」に現地調査することに決定した。

《第3回》

- 1 日時 令和5年1月10日(火) 午前8時30分から
- 2 開催場所 議員協議会室、町内現地
- 3 出席委員(7名)
石川 秀夫、尾崎 惠一、池田 栄次、金繁 典子、原田 達也
那須 芳人、吉村 直城
- 4 調査事項
公共交通システムの調査研究
- 5 説明員の職及び氏名
総務課 課長 立花 慶司、同主査 山口 昌
- 6 調査内容
次のとおりあいなんバスに乗車し、現地調査を行った。
 - ① あいなんバス(小山・正木・中川・満倉線)。
尾崎 惠一、池田 栄次、原田 達也、吉村 直城、立花 慶司

② あいなんバス（敦盛・大僧都線）

石川 秀夫、金繁 典子、那須 芳人、山口 昌

《第4回》

1 日時 令和5年2月1日(水) 午後1時30分から

2 開催場所 議員協議会室

3 出席委員(7名)

石川 秀夫、尾崎 恵一、池田 栄次、金繁 典子、原田 達也
那須 芳人、吉村 直城

4 調査事項

公共交通システムの調査研究

5 調査内容

公共交通システムの現状、「愛南町地域公共交通計画」に関する住民アンケートの集計結果、現地調査での実体験を踏まえ、今後の地域公共交通のあり方について協議し、改善すべき事項等についてとりまとめ報告書を作成することを確認して審議を終了した。

まとめ

当委員会は、愛南町のコミュニティバスを中心とした公共交通システムのあり方について調査研究を行い改善すべき事項等を取りまとめたので、その結果を報告する。

(1) 現状及び背景

愛南町のコミュニティバスである「あいなんバス」の「小山・正木・中川・満倉線」と「敦盛・大僧都線」の利用状況について、実際に乗車し現地調査を行ったところ、「小山・正木・中川・満倉線」の利用者は0人、「敦盛・大僧都線」は6人であった。

令和4年度の上半期の乗車人数実績から一日当たりの利用者数をみると、「増田・広見・上大道線」が8.86人、「小山・正木・中川・満倉線」が7.81人となっており、利用者が一番多い「武者泊・船越（城辺）線」の46.23人と比較すると、利用者数が非常に少ない状況が分かった。この路線では、利用者のニーズに十分に答えられていない事が原因ではないかと推察される。

特に「小山・正木・中川・満倉線」については、乗車時間が2時間近くかかるうえ、南宇和病院や愛南町役場に行くには岩水で乗り換える必要があり、高齢者が利用するには厳しい状況であると思われる。

「敦盛・大僧都線」については、ルートや待合所の変更等の工夫をすれば、利用者の満足度が上がり利用者の増加につながる可能性があると思われたが、利用者に取りを聞いたところ、御荘平城方面の商業施設や病院に行くには、城辺営業所で乗り換える必要があり、バスの待ち時間が2時間もあるので不便を感じているとの意見もあ

った。

(2) まとめ

あいなんバスについて、利用者の満足度を上げ利用率を向上させるためにはどのような方法があるかを検討した。

利用者数が少ない路線については、廃止・休止を検討し、代わりに福祉タクシーの利用や新たにデマンド方式を導入してはどうかとの意見がある一方、コミュニティバスは利益追求ではなく、利用者が少ないからといって廃止・休止とするのは趣旨に反するのでは、との意見もあった。

このような協議の中で、委員会としては、コミュニティバスの趣旨を尊重した上で、具体的に路線変更等に取り組む必要があるので、まずは、利用者や地域の意見や要望を聴くため、路線ごとに利用者や地域住民で構成された協議会等を設置し、路線や運行時間等についてのニーズをくみ上げる体制づくりが必要であるとの考えに至った。また、路線変更以外でも、利用者が殆ど高齢者であることを踏まえ、乗降時の負担軽減や車いすでも利用できるノンステップバスを導入すること、障がい者等の交通弱者について、利用料金の減免制度の導入についても検討が必要であると考えた。

なお、内海地域の柏崎線については、住民からコミュニティバスの運行について要望があるので、テスト運行を行うべきとの意見もあった。

以上、総務文教常任委員会の意見を集約した調査結果報告とする。